

第11章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

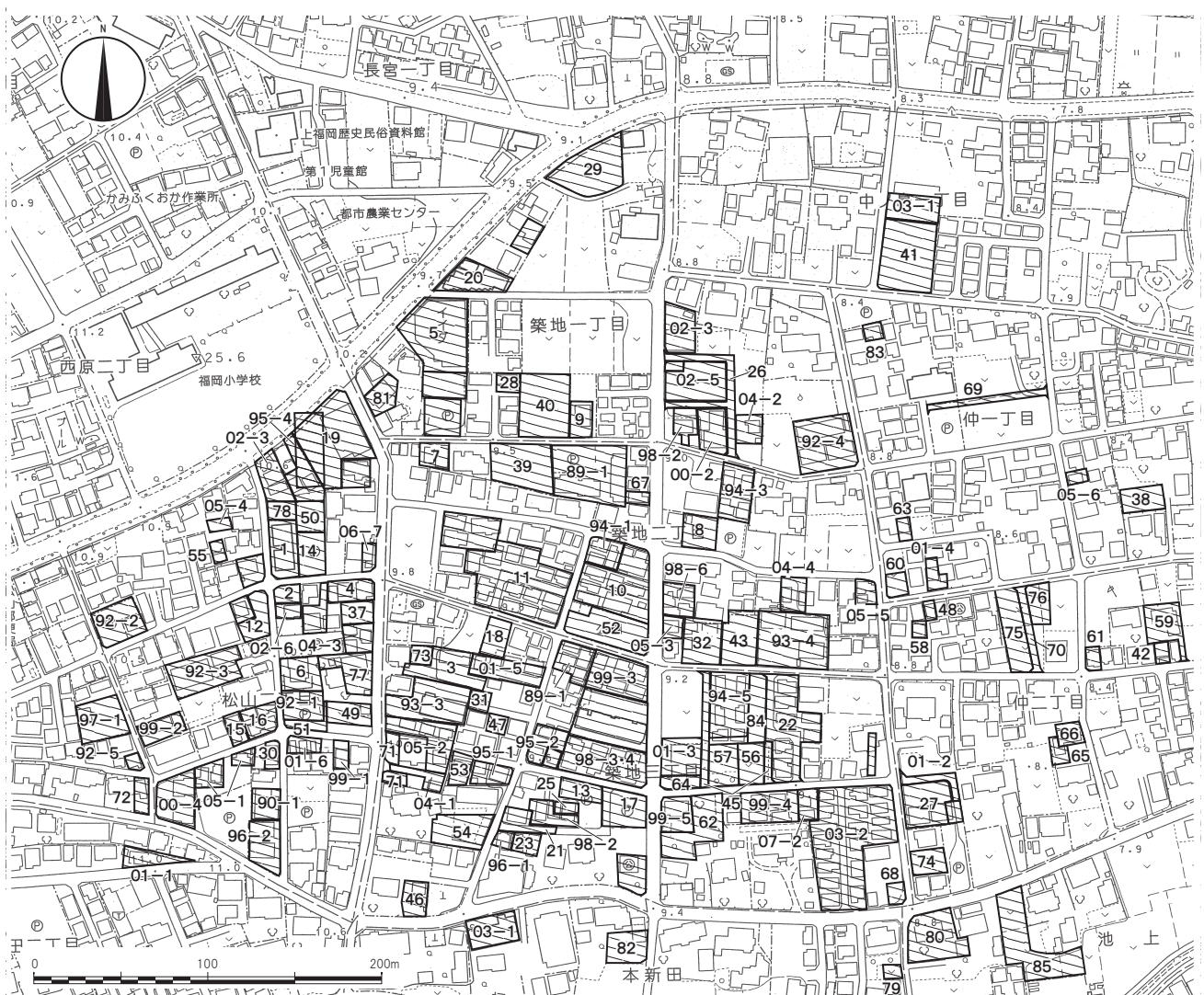
長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第69地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より2013年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年9月10日と11日に行った。幅約1mと1.5mのトレンチ合わせて3本を設定し、



第23図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 16 表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試(1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6～7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19～21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試(3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14～23(2005.6.9～13)	120	個人住宅	古墳住居跡 1	市内 1
05 試(8)	築地 2-5-3	(2005.8.30～9.13)	567	宅地造成	平安住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30～9.7)9.8～13	132	個人住宅	平安住居跡 2	市内 1
05 試(5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(4)	松山 2-4-23	(2005.10.20～21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試(7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10～20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2～8)2.21～3.9	1,047	宅地造成	奈良住居跡 1、中世遺構検出	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7～9)2.21～3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11～24)	668	分譲住宅	堀跡 1、土坑 1、旧石器ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9～11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4～30)10.1～23	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代竪穴住居跡 2、掘立柱建物跡 2、竪穴状遺構 1、時期不明の溝 10、土坑、ビット	市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	個人住宅	ビット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17～22)10.27～11.18	449	宅地造成	平安時代竪穴住居跡 1(住居内鍛冶炉検出)、土坑 1、溝 1、ビット 1	市内 8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27～12.1)	797	分譲住宅	溝 1、ビット 7	市内 8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10～13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26～9.3)	694	分譲住宅	溝 1、落とし穴 1、工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10～21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3、アナグラ 1、慎重工事	市内 10
54	築地 3-1-6・76～83	(2010.9.21～10.1)10.4～11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡 3 確認、西側 1 の住居は盛土保存、他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17)1.18～31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡 1、掘立柱建物跡 1、本調査	市内 10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4～14)4.11～15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他、本調査(一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(2011.4.4～15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 号住居跡と溝、遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6～8)6.14	115	個人住宅	井戸 1、溝 1、ビット 1、本調査	市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9)8.10・11	560	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16～19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11～21)7.23～8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、銭貨、他	市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7～15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13～18)2.19～3.21	630	物置	奈良平安住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧石器	市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ビット 4、須恵器、土師器等	市内 15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10・11)9.12～17	298	道路築造	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11～16)4.17～23	220	道路	奈良平安住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土錘、陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30～5.1)	240	分譲住宅	ビット 1、古銭、陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24～26)	280	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14～20)8.5～11	606	分譲住宅	平安住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22～28)9.26～10.2	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)11.12～17	120	個人住宅	古代住居跡 1、土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22～28)	362	造成工事	平安時代住居跡 1、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3～12)3.13～27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	個人住宅	溝 1、遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、土師器	未報告
85	池上 362-1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1～19)10.20～26	1,244	分譲住宅	古代時代住居跡 2、屋外炉 1、溝 1、土師器、陶磁器、石製品	未報告



第24図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、縄文時代とみられる集石土坑 1 基を確認した。遺跡確認面までの深さは約 60 ～ 70 cm であり、遺構への影響が避けられないため、本調査を実施した。

本調査は試掘調査に引き続き 12 日～ 17 日まで行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

【集石土坑】 調査区の西部に位置し、土坑の平面形

態は円形を呈する。規模は確認面径 84 × 76 cm、底径 47 × 46 cm、深さ 23 cm である。礫は土坑内から密に出土する。出土礫の詳細は第 18 表のとおりである。

【溝】 調査区の西部に位置し、調査区に沿って東西方向に延びるが、北側の立ち上がりは未確認である。南側の立ち上がりは緩やかである。上幅 70 cm 以上、下幅 25 cm 以上で深さ 32.9 cm である。近世以降の時期で土地境の溝の可能性がある。

【遺物】 (第 25 図 1) 1 は表土層出土の縄文時代早期の土器で、胎土に繊維を含み外面に条痕文を施す。

第 17 表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉 カマド K	設置壁	カマド 規模cm	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
1	1978	第 1 次 1 号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東	110 × 75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査 I
2	"	第 1 次 2 号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東	120 × 85	○		国分前半		埋蔵文化財の調査 I
3	1979	第 2 次 3 号住居	2/3	(方形)	350 × 10	K	東		一部		国分後半		埋蔵文化財の調査 II
4	"	第 3 次 4 号住居	完掘	方形	530 × 475	K	北	200 × 100	○	N-14-E	国分後半		埋蔵文化財の調査 II
5	1991	第 10 次 5 号住居	完掘	長方形	230 × 350	K	北→東		○		9c 2 半期		埋蔵文化財の調査 14
6	"	第 10 次 6 号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東		○		9c 2 半期		埋蔵文化財の調査 14
7	"	第 11 次 7 号住居	完掘	正方形	400 × 400		遺存状態悪い		○		8c 4 半期		埋蔵文化財の調査 14
8	1992	第 13 次 8 号住居	3/4	(方形)	400 ×					N-10-E	8c 3 半期		埋蔵文化財の調査 15
9	1993	第 15 次 9 号住居	完掘		A440 × 350、 B420 × 310、 C260 × 300	K	東→北	A210 × 210、 B210 × 210、 C80 × 65	○		9c 1 半期	鉄鉢型須恵器出土	埋蔵文化財の調査 16
10	"	第 16 次 10 号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北	130 × 80	○		8c 4 半期		埋蔵文化財の調査 16
11	"	第 17 次 11 号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北		○	最大住居	7c 4 半期	黒色土師器出土	埋蔵文化財の調査 16
12	"	第 18 次 12 号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北		(○)		8c 4 半期		埋蔵文化財の調査 16 と市史
13	1994	第 19 次 13 号住居	完掘	長方形	450 × 300	K	北		○	N-5-E	9c 1 半期		松山遺跡第 19 次調査概要
14	"	第 19 次 14 号住居	完掘	長方形	450 × 500	K	東→北		○	N-5-E	9c 1 半期	土鍾出土	松山遺跡第 19 次調査概要
15	"	第 20 次 15 号住居	完掘	長方形	370 × 470	K	北西	70 × 70	○		7c 4 半期		松山遺跡第 20 次の調査
16	1995	7 年試掘(2)16 号住居								N-20-W	6c		未報告
17	"	第 21 次 17 号住居	完掘	長方形	480 × 400	K	北		○		7c 4 半期		埋蔵文化財の調査 19
18	1997	第 22 次 18 号住居	完掘	長方形	240 × 460	K	東	90 × 60	○	N-50-E	8c 末		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 1 号掘立	部分	長方形	東西 5 間南北 3 間						8c 末～9c 初		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 2 号掘立	部分	長方形	東西 2 間南北 2 間						8c 末～9c 初		埋蔵文化財の調査 20
	"	第 22 次 3 号掘立	部分	長方形	(東西 2 間)南北 3 間						8c 末～9c 初		埋蔵文化財の調査 20
19	1998	第 23 次 19 号住居	4/5	長方形	260 × 290				○	N-30-W	8c 後半	土鍾 6 点出土	埋蔵文化財の調査 21
20	1999	第 25 次 20 号住居									8c 初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	"	第 25 次 21 号住居									8c 初頭		未報告
22	2000	第 26 次 22 号住居	完掘		360 ×	K	北		○		7c 後半	14 年度完掘、 焼失住居	埋蔵文化財の調査 23
23	"	第 27 次 23 号住居	完掘	台形	600 × 720	K	北		○		8c 半ば		埋蔵文化財の調査 23
24	2001	第 28 次 24 号住居	1/2		340 ×	K	北西		○		8c 中葉		埋蔵文化財の調査 24
25	2000	12 年度試掘 5	2/3				遺存状態悪い						埋蔵文化財の調査 23
26	2002	第 29 次 26 号住居	完掘	長方形	420 × 360	K	北		○		7c 後半		埋蔵文化財の調査 25
27	2003	15 年度試掘 27 号住居	一部		(盛土保存)								プランのみ確認 埋蔵文化財の調査 26
28	"	15 年度試掘 28 号住居	1/2		(盛土保存)								プランのみ確認 埋蔵文化財の調査 26
29	"	第 30 次 29 号住居	完掘	長方形	360 × 420	K	東		○		9c 前半		埋蔵文化財の調査 26
30	2005	第 31 次 30 号住居	完掘	長方形	360 × 600	K	北		○			土鍾出土	市内遺跡群 1
31	"	第 32 次 31 号住居	完掘	長方形	380 × 330 ×	K	東		○	S-65-E	9c 中葉		市内遺跡群 1
32	"	第 32 次 32 号住居	1/2	長方形	東西 4 m × 南北 3 m 以上	K	東		○	S-85-E			市内遺跡群 1
33	2006	40 地点 H33 号住居	完掘	方形	455 × 420	K	北	98 × 154	○	N-5-E	8c 後半		市内遺跡群 3
34	2008	45 地点 H34 号住居	完掘	方形	364 × 361	K	東	122 × 125	○	N-96-E			市内遺跡群 6
35	2008	45 地点 H35 号住居	1/2	(方形)	504 × (222)				○			焼失住居	市内遺跡群 6
36	2009	49 地点 H36 号住居	完掘	方形	280 × 290	K	東	105 × 100	○	N-92-E	8c 後半	鍛冶炉 1	市内遺跡群 7
37	2010	54 地点 H37 号住居	完掘	方形	434 × 524	K	北	70 × 86	○	N-13-E	8c 1 四半期		市内遺跡群 9
38	2010	54 地点 H38 号住居	一部	方形	(440) × 468	K	東	95	○	N-107-E	8c 1 四半期	プラン確認	市内遺跡群 9
39	2010	54 地点 H39 号住居	完掘	方形	336 × 459	K	北	79 × 101	○	N-4-E	8c 1 四半期		市内遺跡群 9
40	2011	55 地点 H40 号住居	3/4	(方形)	(300) × (320)	K	東	95 × 123	○	N-90-E	9c 前半		市内遺跡群 10
41	2012	62 地点 H41 号住居	3/4	(方形)	410 × (300)	K	北			N-18-E			市内遺跡群 12
42	2013	65・66 地点 H42 号住居		方形	460 × 440	K	東	110 × 106	○	N-62-E	9c 前半		市内遺跡群 15
43	2013	66 地点 H43A 号住居		方形	470 × 470	-	-	-	-	N-66-E	9c 中葉前後以降		市内遺跡群 15
	2013	66 地点 H43B 号住居		方形	700 × 700	K	東		○	N-66-E	9c 中葉前後以降		市内遺跡群 15
44	2013	70・76 地点 H44 号住居		(長方形)	(420) × 340	K	北	80 × 65	○		8c 前半		市内遺跡群 18
45	2013	73 地点 H45 号住居		不明	(238 × 125)				○		8c 中～後半		市内遺跡群 18
46	2013	75 地点 H46 号住居		不明	(320 × 145)				○		8c 前半～中		市内遺跡群 18
47	2013	77 地点 H47 号住居		不明	410 × (95)	K	北	156 × 135	○		8c 後半～9c 初		市内遺跡群 18

Ⅲ 松山遺跡第 70 地点

(1) 調査の概要

調査は市道築造に伴うもので、ふじみ野市長より 2013 年 3 月 25 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置するため、関係課と協議の結果、試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 4 月 11 日～16 日に行った。幅約 1.5 m と 2 m のトレンチ合わせて 2 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、奈良平安時代とみられる住居跡 1 軒、縄文時代とみられる集石土坑 1 基、古代以降とみられる井戸 1 基などを確認した。遺跡確認面までの深さは約 70 cm であり、遺構への影響が避けられないため、本調査を実施した。

本調査は試掘調査に引き続き 17 日～23 日まで行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構と遺物は、次のとおりである。

(2) 遺構と遺物

①集石土坑

調査区の中央部に位置し、土坑の平面形態は円形を呈する。覆土層の観察から縄文時代とみられる。

規模は確認面径 70 × 65 cm、底径 50 × 47 cm、深さ 25.7 cm である。礫は土坑内から、小石から 13 cm 大のものまで、やや密に出土する。出土礫の詳細は第 19 表のとおりである。

②H 44 号住居跡 (第 70・76 地点)

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北部で東側は調査区外 (第 76 地点) に延びている。また、南東隅はプランの確認を行っただけで未検出である。本項では第 76 地点で検出された住居跡部分についても併せて報告する。出土遺物から 8 世紀前半とみられる。

【形状・規模・掘方】 平面形態は長方形を呈するが、調査区が第 70・76 地点にまたがるため、平面形態及び規模は推定である。規模は長軸 (主軸) 420 × 短軸 340 cm、深さ 35 cm である。掘方は地山ローム層まで全体的に掘り下げた後、貼床を行う。

【柱穴】 支柱穴 (P 3～5) は 4 本とみられるが、1 本は未検出である。

ピット 1 の平面形態は隅丸方形で、規模は確認面径 51 × 39 cm、底径 25 × 20 cm、深さ 19.8 cm。ピット 2 の平面形態は円形で、規模は確認面径 28 × 26 cm、底

径 20 × 15 cm、深さ 42.8 cm。ピット 3 の平面形態は円形で、規模は確認面径 26 × 24 cm、底径 15 × 12 cm、深さ 19.4 cm。ピット 4 の平面形態は方形で、規模は確認面径 27 × 23 cm、底径 6 × 3 cm、深さ 15.3 cm。ピット 5 の平面形態は推定円形で、規模は確認面径 46 × 19 cm、底径 32 × 8 cm、深さ 25.0 cm。ピット 6 の平面形態は楕円形で、規模は確認面径 19 × 12 cm、底径 4 cm、深さ 14.3 cm である。

【竈】 住居跡北壁中央部に位置する。天井は崩壊しており、右袖と奥壁を検出した。左袖部は調査区外に延びるが、構築材として使用された土師器の甕が口縁部を下にした状態で出土した。甕の周辺には構築部材の灰色粘土がみられる。

竈残存部の長軸 65 cm 以上、袖部の最大幅 80 cm 以上である。竈内部は幅約 40 cm、奥行き約 70 cm で床面からの深さは約 15 cm である。煙道部は住居の壁を奥行き約 55 cm 掘り込む。

【周溝】 貼床後に周溝を掘り上げる。竈周辺と住居の北東隅と西壁の一部で途切れる。上幅 20 ～ 30 cm、下幅 15 ～ 20 cm、深さ 15 ～ 18 cm である。

【遺物出土状況】 竈内と竈周辺の住居跡床面から集中して出土する。

【遺物】 (第 32 図 1～15) 1、2 は土師器の坏、3～11 は土師器の壺・甕類である。12～15 は土錘である。詳細は第 20 表参照。

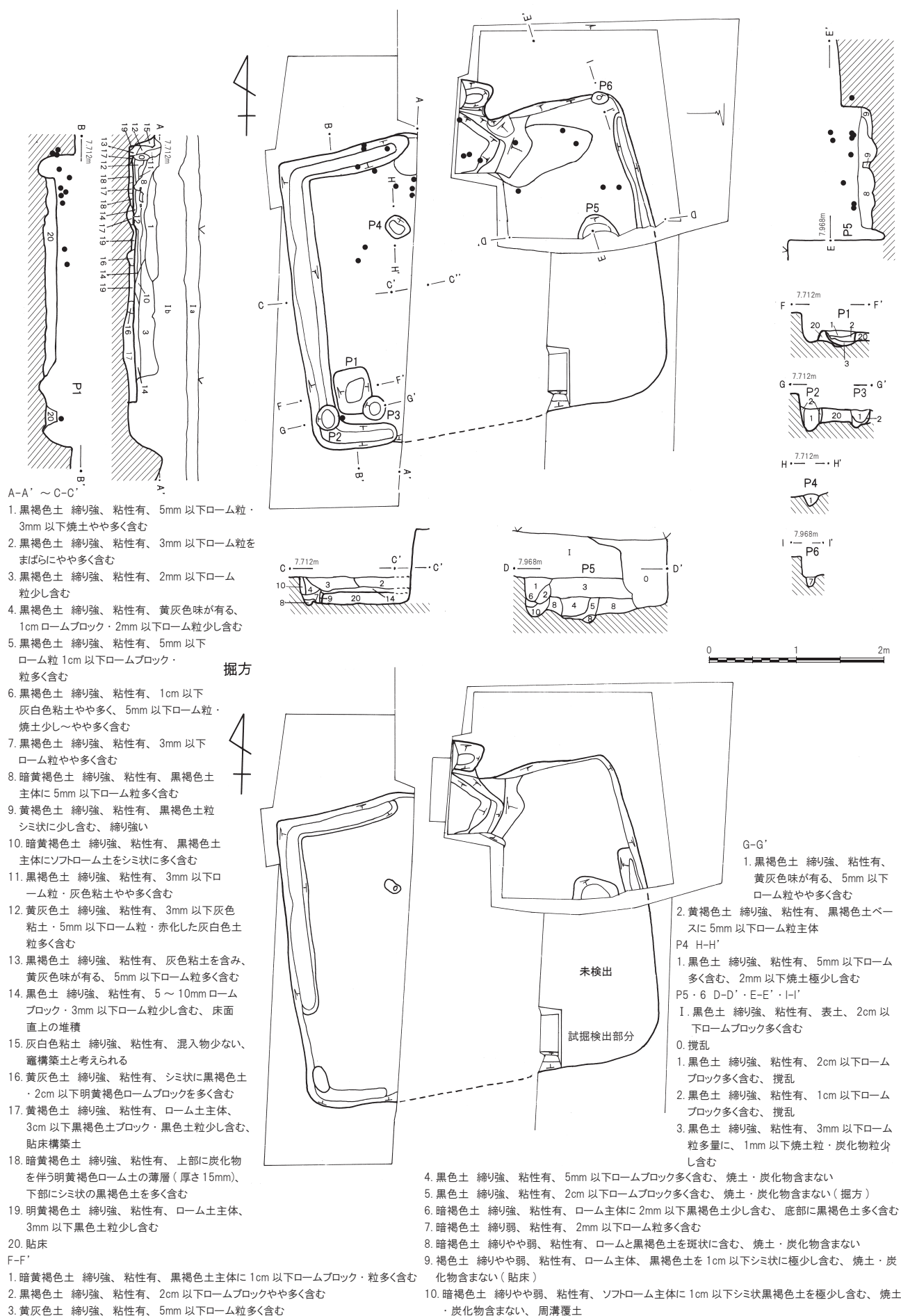
③井戸

調査区の北側に位置する。平面形態は円形で、北東部の上端が舌状に削られ広くなる。上端の一部が削られて広がる形態は長宮遺跡、松山遺跡、滝遺跡等の中近世期の井戸に多く見られる特徴である。規模は、確認面径 140 × 138 cm、底径 90 × 75 cm、深さ 153.3 cm である。上端舌状部は長さ 68 cm × 幅 108 cm、深さ 43.3 cm である。出土遺物は第 32 図 20～24 で、詳細は第 20 表参照。

④溝

第 70 地点で確認された溝のうち、溝 1 と溝 2 は第 75 地点または第 76 地点にも延びているが、合わせて本項で報告する。溝 3 と溝 4 については各地点の項で報告する。

【溝 1】 溝 1 は調査区の北部を東西に延び、第 75 地点と第 76 地点でも確認されている。第 76 地点では井戸 1 と重複し、溝 1 が新しい。断面形態は「U」字状で、規模は上幅 46 ～ 138 cm、下幅 13 ～ 44 cm、



第27図 松山遺跡第70・76地点H44号住居跡・掘方(1/60)

合わせて報告したので割愛する。

①井戸

3 区画に分譲されたうち、井戸 1 は真ん中の区画、井戸 2 は北側の区画に位置する。

【井戸 1】 真ん中の調査区の西端に位置し、土坑 1、溝 1 と重複する。井戸 1 は溝 1 より古いが、土坑 1 との関係は不明である。井戸 1 は試掘調査及び本調査で調査を行った。

平面形態は楕円形で、東部の上端がやや舌状に削られ広くなる。規模は、確認面径 (117) × 95 cm、底径 43 × 38 cm、深さ 107.6 cm である。出土遺物は第 33 図 25・26 で、詳細は第 20 表参照。

【井戸 2】 北側調査区の西端に位置する。土坑 3 と重複し井戸 2 が新しい。井戸 2 は試掘調査で検出した。

平面形態は楕円形である。規模は、確認面径 138 × 112 cm、底径 75 × 60 cm、深さ 145.2 cm である。出土遺物は第 33 図 27・28 で、詳細は第 20 表参照。

②土坑

3 区画に分譲されたうち、土坑 1 は中央部の区画、土坑 2 は南側の区画に位置する。

【土坑 1】 中央部の調査区の西端に位置し、井戸 1、溝 1 と重複する。土坑 1 は溝 1 より古いが、井戸 1 との関係は不明である。土坑 1 は試掘調査で調査を行った。全容は不明である。検出部の平面形態は隅丸方形か長方形と推測される。規模は、確認面径 (135) × (86) cm、底径 (94) × (70) cm、深さ 41.7 cm である。

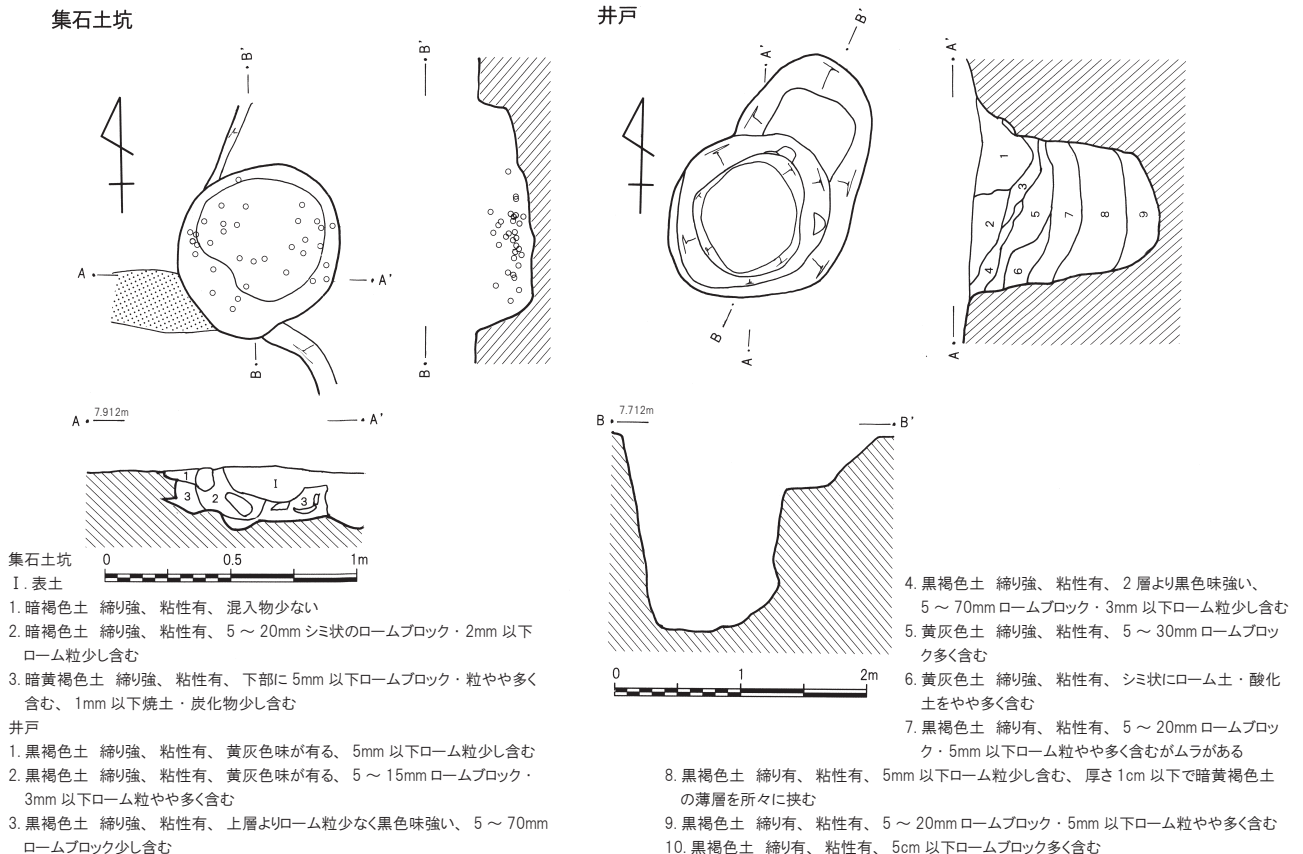
【土坑 2】 3 区画に分譲された区画の中で、南端の区画に位置する。溝 4 と重複するが新旧関係は不明である。土坑 1 は溝 1 より古いが、井戸 1 との関係は不明である。

平面形態はほぼ円形で、東部の上端がやや舌状に削られ広くなる。規模は、確認面径 131 × 106 cm、底径 82 × 72 cm、深さ 65.2 cm である。

【土坑 3】 3 区画に分譲された区画の中で、北端の区画に位置する。井戸 2 と重複し、新旧関係は土坑 3 が

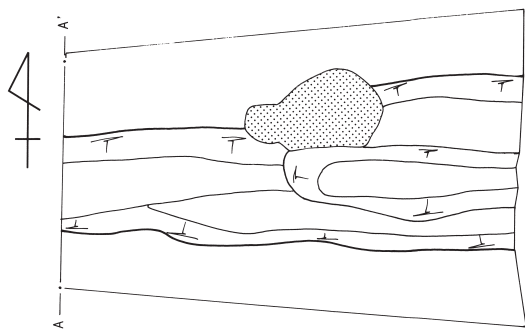
第 19 表 松山遺跡第 70 地点集石土坑・出土礫観察表 (単位 cm・g)

平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
円形	70 × 65	50 × 47	25.7		40	11,392.34	284.81	27(67.50%)	13(32.50%)	26(65.00%)	14(35.00%)	30(75.00%)	10(25.00%)

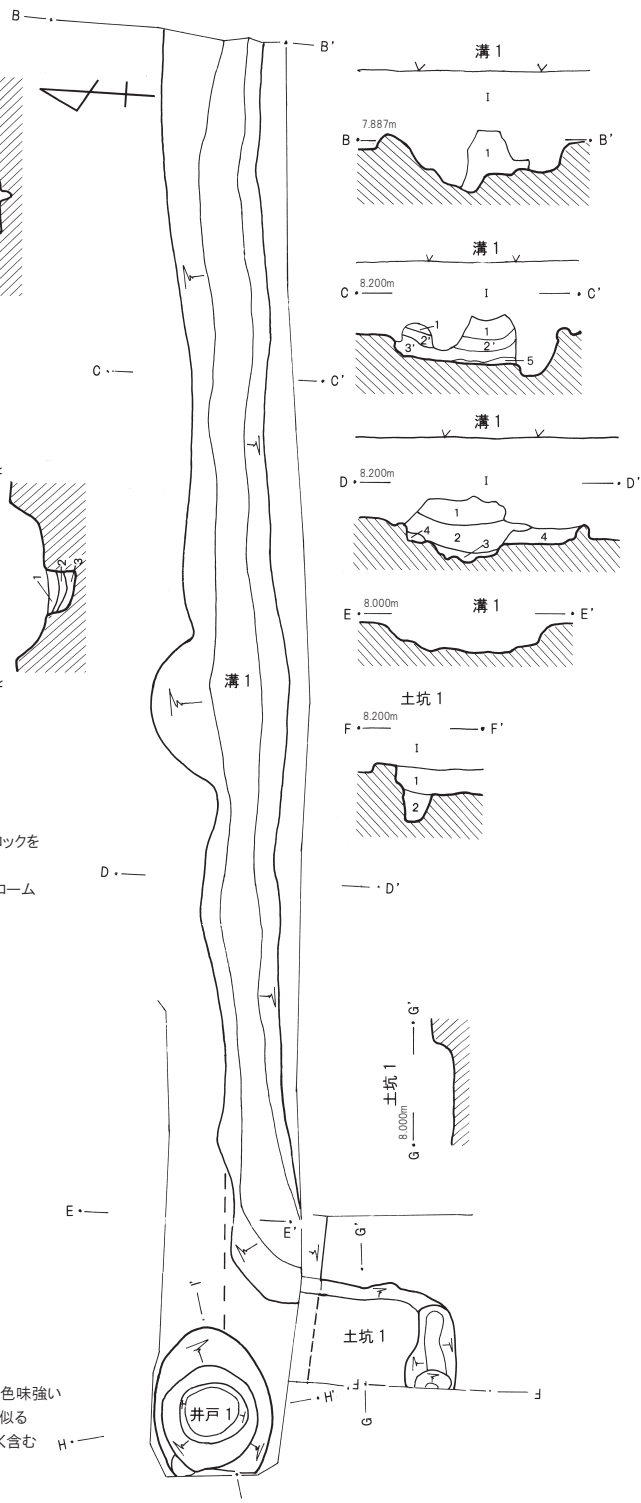


第 29 図 松山遺跡第 70 地点集石土坑・遺物出土状況 (1/30)、井戸 (1/60)

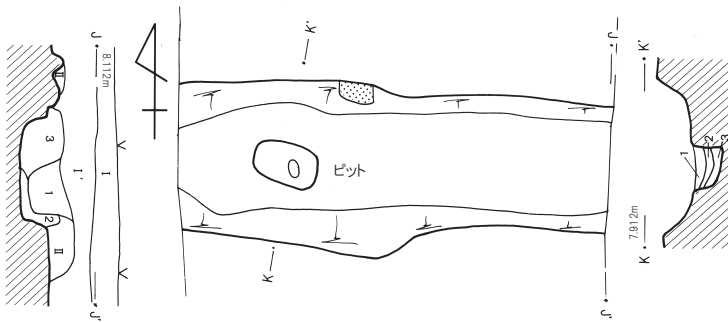
溝 1(70 地点)



溝 1(76 地点)



溝 2(70 地点)



第 70 地点 溝 1

- I a. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、硬質土粒を含み、ボソボソしている、所々ロームブロックを含む、耕作土
- I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土粒少し、所々シミ状に 1 ~ 10cm ロームブロック少し含む
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、(灰色味は少ない) 2mm 以下の細粒ローム粒やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む

第 70 地点 溝 2

- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土 耕作土
- I'. 黒色土 締り弱、粘性有、耕作土
- II. 黒褐色土 締り弱、粘性有、2cm 以下ロームブロック多く含む、奈良平安時代包含層
1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大赤褐色粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に 5mm 以下ローム粒多く含む
 3. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 大ローム粒多く含む (1 層に類似ややローム粒多い)

第 70 地点 ビット

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土少し含む
3. 黄灰色土 締り強、粘性有、黄褐色ローム土を多く含む

第 76 地点 溝 1

- I. 表土 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土・5mm 以下灰白色土少し含む、色調はやや灰色味有る
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、I 層より黒色味強い、1mm 以下ローム粒少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ロームブロック・粒やや多く含む 1 層より黒色味強い
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、色調は 2 層に似る
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロックやや多く含む、ベースの土は 2 層より黒色味強い
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 1cm 以下ロームブロック・粒少し含む、色調は 3 層に似る
 6. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調やや明るい、シミ状の 5mm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、締り強い、シミ状の 1cm 以下ロームブロック・粒多く含む

第 76 地点 土坑 1

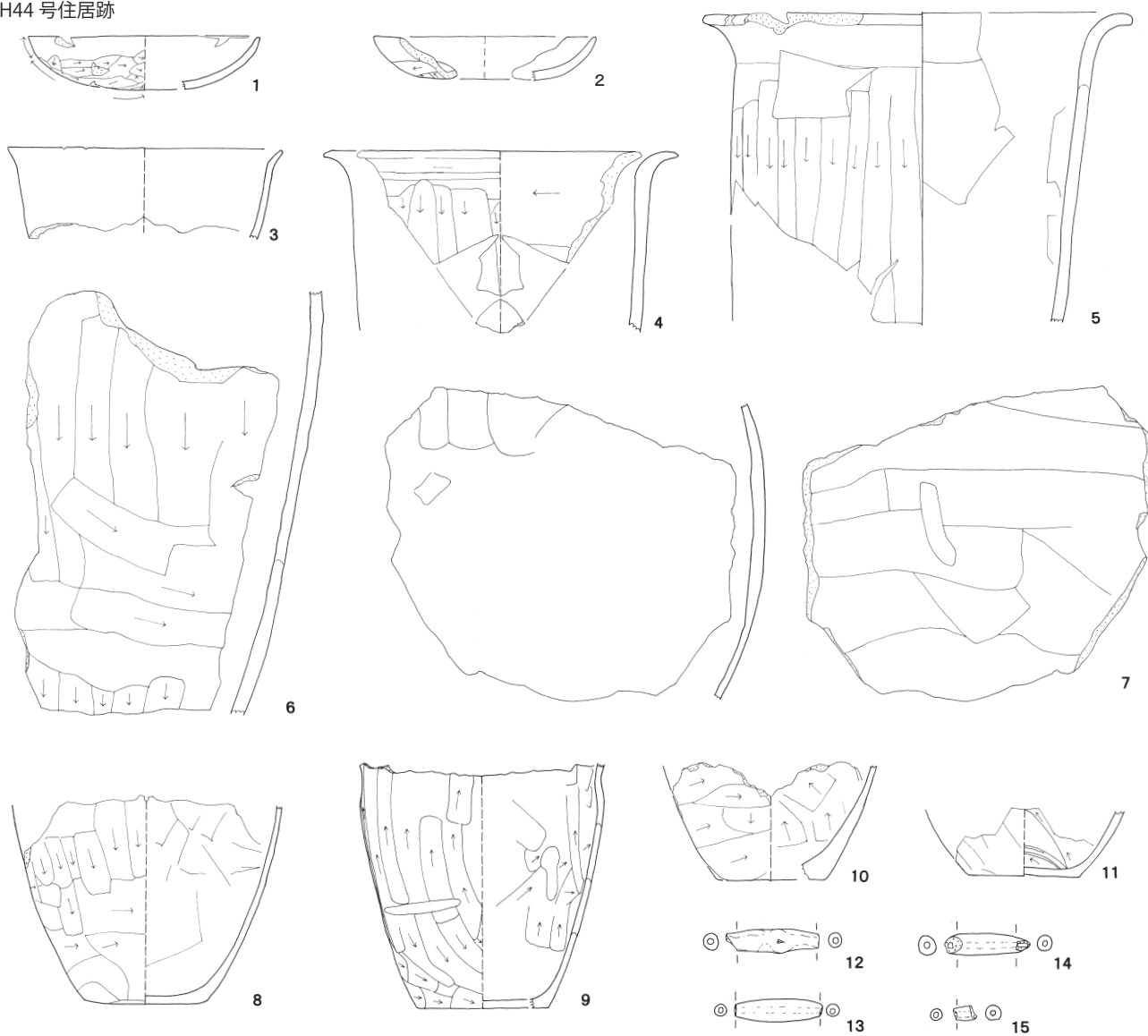
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 15mm ロームブロック多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、硬締っている、シミ状に 5mm 以下ローム粒やや多く含む

第 76 地点 土坑 2・溝 4

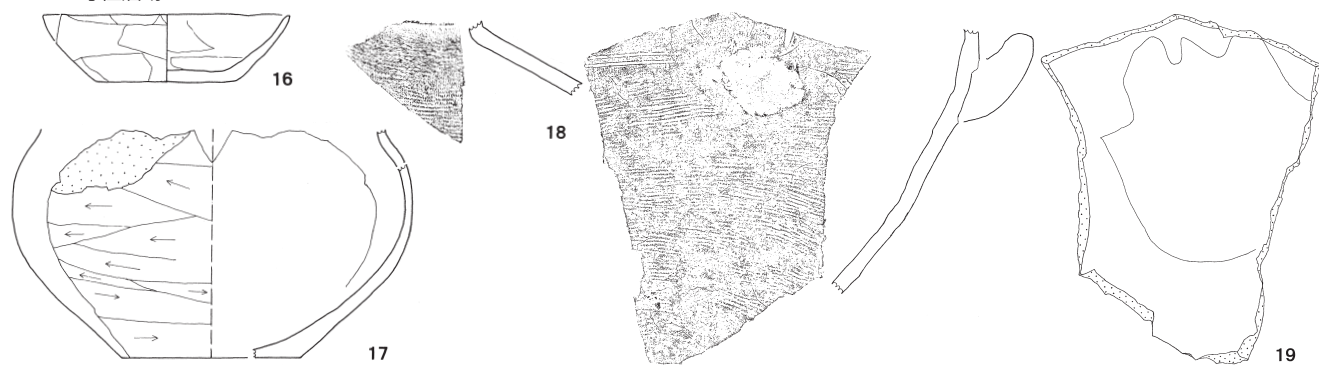
- I. 灰色味有る黒褐色土 締り強、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の 1 ~ 10cm 暗褐色土ブロック・5mm 以下ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 5cm 以下暗褐色土・5mm 以下ローム粒少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、4 層より色調暗い、2mm 以下ローム粒・4cm 礫少し含む
 6. 黄灰色土 締り強、粘性有、斜位の間層状に 3mm 以下ローム粒主体の黄褐色土・2cm 厚黒褐色土を挟む、他はシミ状の 5mm 以下ローム粒やや多く含む
 7. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
 8. 黄褐色土 締り有、粘性やや弱、黒褐色土ベースに 5mm 以下ローム粒主体
 9. 黄褐色土 締り強、粘性有、4cm 以下ロームブロック主体、床面構築土

第 30 図 松山遺跡第 70 地点溝・第 76 地点土坑・井戸・溝① (1/60)

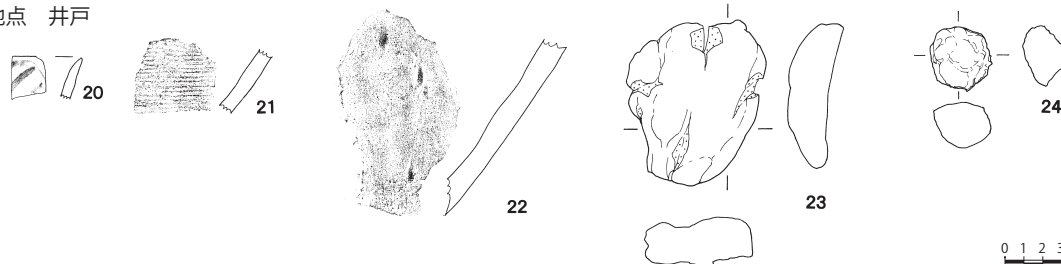
H44 号住居跡



H46 号住居跡

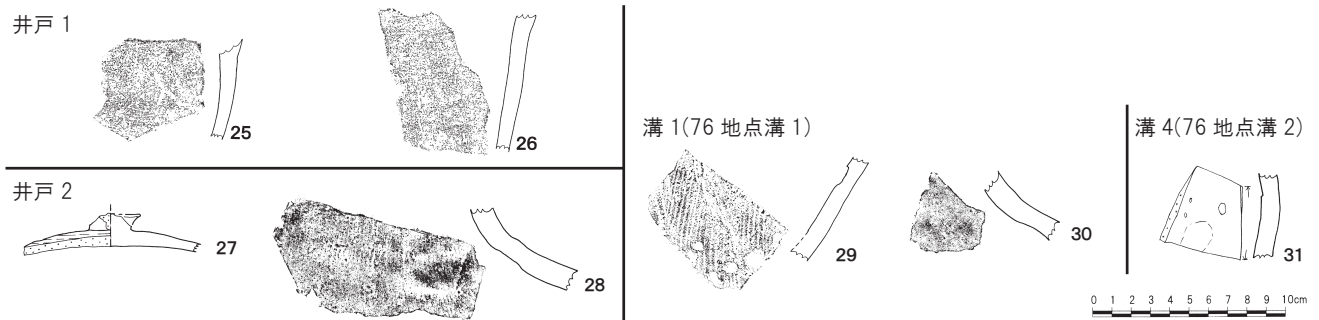


70 地点 井戸



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第 32 図 松山遺跡第 70・75・76 地点出土遺物 (1/4)



第 33 図 松山遺跡第 76 地点出土遺物 (1/4)

第 20 表 松山遺跡第 70・75・76 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

掲載No	出土遺構名・注記No	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1	H44 号住居跡 70H44-No.8、B 区、H1	土師器 / 環	(13.7)	—	3.2	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 北武蔵型	—	7c 後半～8c 前半
2	H44 号住居跡 76H44No.7	土師器 / 環	(11.0)	—	(3.1)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 明褐色、中粒砂少・白色粒	—	7c 後半～8c 前半
3	H44 号住居跡 76H44-No.3、4	土師器 / 甕	(16.2)	—	(5.4)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部斜ケズリ / 胎土: 橙色、赤色粒・中粒砂	—	7c 後半～8c 前半
4	H44 号住居跡 70H44No.10、12	土師器 / 長胴甕	(21.0)	—	(10.7)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部縦ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.8cm	—	7c 後半～8c 前半
5	H44 号住居跡 76H44-No.14、15、23	土師器 / 長胴甕	25.0	—	(18.1)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部縦ケズリ / 胎土: 浅黄褐色、中～粗粒砂 / 器厚 0.8cm / 胴部に煤付着	—	7c 後半～8c 前半
6	H44 号住居跡 76H44No.11、12	土師器 / 長胴甕	—	—	(25.0)	内面ナデ、外面胴部縦ケズリ・中位に横ケズリ / 胎土: 橙色、中～粗粒砂・赤色粒 / 器厚 0.8cm	—	7c 後半～8c 前半
7	H44 号住居跡 70H44No.20	土師器 / 甕	—	—	(17.4)	内面横ケズリ・下部ナデ、外面上部縦・以下斜ケズリ / 胎土: 橙色、中～粗粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5～8cm	—	7c 後半～8c 前半
8	H44 号住居跡 76H44No.1	土師器 / 長胴甕	—	7.3	(11.9)	内面ナデ、外面胴部縦・底部周辺横ケズリ / 内底面・外面に煤付着 / 胎土: にぶい黄褐色、中粒砂少	—	7c 後半～8c 前半
9	H44 号住居跡 76H44No.13	土師器 / 長胴甕	—	(7.8)	(14.1)	内面ナデ、外面胴部縦・底部周辺斜～横ケズリ / 胴部に煤付着 / 胎土: 橙色、中～粗粒砂 / 器厚 0.6cm	—	7c 後半～8c 前半
10	H44 号住居跡 76H44No.5	土師器 / 長胴甕	—	(6.0)	(6.6)	内面ナデ、外面底部周辺横ケズリ / 胴部に黒斑有 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.6cm	—	7c 後半～8c 前半
11	H44 号住居跡 70H44No.6	土師器 / 長胴甕	—	6.5	(3.8)	内面ナデ、外面底部周辺横ケズリ / 底部に煤付着 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5cm	—	7c 後半～8c 前半
12	H44 号住居跡 70H44No.1	土製品 / 土鍾	5.5	1.3	—	重量: (8.93)g / 一部欠 / 胎土: 細粒砂	—	—
13	H44 号住居跡 70H44No.9	土製品 / 土鍾	5.1	1.4	—	重量: 9.52g / 胎土: 細粒砂	—	—
14	H44 号住居跡 70H44No.2	土製品 / 土鍾	5.0	1.3	—	重量: (7.69)g / 一部欠 / 胎土: 細粒砂	—	—
15	H44 号住居跡 70H44H1	土製品 / 土鍾	(1.2)	(0.9)	—	重量: (0.85)g / 一部残存 / 胎土: 細粒砂	—	—
16	H46 号住居跡 75H46No.6	土師器 / 環	13.0	7.5	3.5	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面胴部～底部ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂	—	8c 前半～中
17	H46 号住居跡 75H46No.2	土師器 / 甕	(最大幅 21.2)	(9.4)	(11.6)	内面ナデ、外面横ケズリ / 胴部に黒斑有 / 胎土: 橙色、中粒砂・赤色粒 / 器厚 0.5cm	—	8c 前半
18	H46 号住居跡 75H46No.3	須恵器 / 壺?	—	—	(3.8)	輪積成形 / 内面ナデ、外面平行タタキ目 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量	—	8c
19	H46 号住居跡 75H46No.1	須恵器 / 鉢?	—	—	(17.7)	輪積成形 / 内面ナデ・同心円当て具痕、外面平行タタキ目 / 胴上部に沈線 2 条、把手貼付け跡 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英粒微量、内面縦転用か?	—	8c 前半
20	井戸 1 井 1	陶器 / 青磁碗	—	—	(2.2)	連弁文 / 胎土: 灰白色 / 釉薬: 明緑灰色 (7.5GY-7/1)	能泉窯	13c 中～14c 前半
21	井戸 1 井 No.2	須恵器 / 甕?	—	—	(3.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面平行タタキ目 / 胎土: 灰色、白色粒子多量・石英微量	—	—
22	井戸 1 井 1-2	陶器 / 甕?	—	—	1.1	輪積成形 / 内外面ナデ / 胎土: 表面以外は酸化炎焼成となり浅黄褐色、砂粒	常滑	13c～14c
23	井戸 1	土製品 / 粘土塊	9.0	7.2	2.5	ナデ痕? 有り / 白色粒子微量 / 重量: 71.32g	—	—
24	井戸 1	土製品 / 粘土塊	3.4	3.3	2.4	白色粒子微量 / 19.06g	—	—
25	井戸 1 1 井	土師器 / 甕?	—	—	(5.2)	口縁部横ナデ、内面ナデ、外面横～斜ケズリ / 胎土: 淡黄色、中粒砂・赤色粒	—	—
26	井戸 1 1 井	土師器 / 長胴甕	—	—	(7.0)	内面ナデ、外面頸部横ナデ、胴部縦ケズリ / 胎土: 橙色、中粒砂	—	—
27	井戸 2 2 井 2	須恵器 / 蓋	(9.2)	紐径 (3.0)	(2.1)	輪積成形 / 内外面ナデ / 扁平紐 / 胎土: 灰色、白色粒子・白色針状物質	南比企	8c～
28	井戸 2 2 井 2	陶器 / 甕	—	—	(4.2)	輪積成形 / 内面指圧痕・ナデ、外面赤褐色・自然釉 / 胎土: 灰白色、白色粒子・砂粒、キメ粗い	常滑	中世
29	溝 1 1M	陶器 / 甕	—	—	(5.5)	輪積成形 / 内面ナデ、外面ハケ目ナデ・赤褐色 / 胎土: 灰白色、白色粒子・霰、キメ粗い	常滑	中世
30	溝 1 1M	陶器 / 甕	—	—	(3.8)	輪積成形 / 内面ナデ・赤褐色、外面赤褐色・自然釉 / 胎土: 灰白色、白色粒子・砂粒、キメ粗い	常滑	中世
31	溝 2 2M2	陶器 / 甕	—	—	(4.4)	輪積成形 / 内面ナデ、外面灰釉? (暗オリーブ色、7.5Y4/3) / 胎土: 灰白色、細粒砂、キメやや細かい / 割れ口の 1 面が摩滅し、転用砥	常滑	中世

(2) 遺構と遺物

遺構はピット 1 基を検出した。ピットの平面形態は方形で、規模は確認面径 43 × 37 cm、底径 15 × 14 cm、深さ 98.2 cm。また、調査区西側の溝は、近現代の遺物を含み、道路の側溝か土地境に伴うものとみられる。上幅 88 ～ 92 cm、下幅 30 ～ 38 cm。深さ 26.1 cm。

遺物は、ピットの覆土層から陶器の破片 1 点が出土した。(第 34 図 1) 甕の頸部から肩にかけて、内外面に自然釉が掛る。第 34 図 2 は表土層から採集した竜 1 銭銅貨で、表面に竜の文様と「大日本・明治十六年・1 S E N・」、裏面「一銭、以百枚 菊紋 換一圓」。1883 年製。重さ 6.25g。



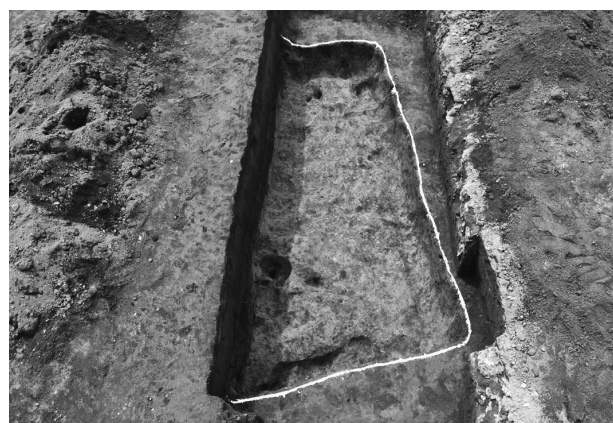
松山遺跡第70地点調査風景



松山遺跡第70地点トレンチ2



松山遺跡第70地点調査風景



松山遺跡第70地点H44号住居跡掘方



松山遺跡第70地点H44号住居跡



松山遺跡第70地点H44号住居跡ピット2・3完掘



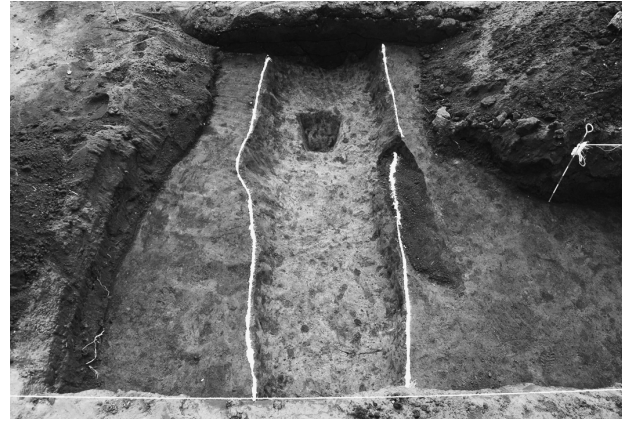
松山遺跡第70地点集石土坑遺物出土状況



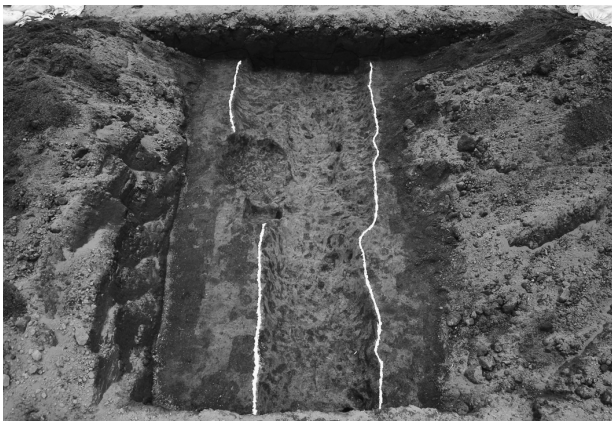
松山遺跡第70地点集石土坑完掘



松山遺跡第 70 地点井戸



松山遺跡第 70 地点溝 1



松山遺跡第 70 地点溝 1



松山遺跡第 75 地点調査風景



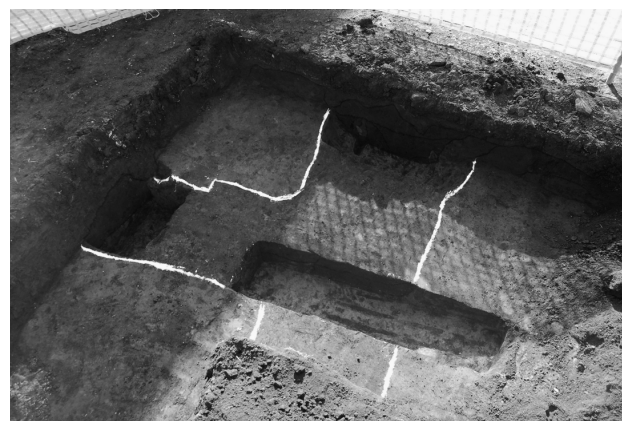
松山遺跡第 75 地点調査風景



松山遺跡第 75 地点トレンチ 3



松山遺跡第 75 地点溝 3



松山遺跡第 75 地点溝 3